

ガイダンス

1. 実験の予定

10月05日（金）	第1回目	ガイダンス・班分け
10月12日（金）	第2回目	音環境の測定（その1・説明）
10月19日（金）	第3回目	音環境の測定（その2・測定の実施）
10月26日（金）	第4回目	音環境の測定（その3・補足説明）
11月02日（金）	第5回目	光環境の測定（その1・説明）
11月09日（金）		白亜祭準備のため休講
11月16日（金）	第6回目	光環境の測定（その2・測定の実施）
11月22日（木）	第7回目	光環境の測定（その3・補足説明） ← <u>曜日が違うので注意</u>
11月30日（金）	第8回目	熱環境の測定（その1・説明）
12月07日（金）	第9回目	熱環境の測定（その2・測定の実施）
12月14日（金）	第10回目	熱環境の測定（その3・補足説明）
12月21日（金）	第11回目	空気環境の測定（その1・説明）
01月11日（金）	第12回目	空気環境の測定（その2・測定の実施）
01月16日（木）	第13回目	空気環境の測定（その3・補足説明） ← <u>曜日が違うので注意</u>
01月18日（金）		センター試験準備のため講義なし
01月25日（金）	第14回	ビル衛生管理法に基づく環境の測定（その1・説明）
02月01日（金）	第15回	ビル衛生管理法に基づく環境の測定（その2・測定の実施）

音環境：道路交通騒音の測定，室内騒音の測定など

光環境：照度の測定，輝度の測定など

熱環境：温湿度の測定，壁の表面温度の測定，グローブ温度の測定など

空気環境：風速の測定，空気汚染の測定など

原則として3週間で一つの項目の実験を行います。

一つの項目ごとに実験レポートを作成してください。レポートの締め切りは、原則として、（その3・補足説明）を行った翌週の月曜日までとします。例えば、「音環境の測定」の場合は、10月29日（月）が締め切りとなります。その後、レポートを採点（4段階程度）し、次の項目の（その1・説明）で返却し、講評する予定です。

レポートの作成の際には、（その3・補足説明）を行う金曜日から締め切りの翌週月曜日の4日間の時間があると考えずに、（その2・測定の実施）を行う金曜日から翌々週の月曜日までの11日間の時間をかけると考えてください。したがって、（その3・補足説明）の実施までには、ある程度までレポートの作成が進んでいることが要求されます。

上記の予定は、皆さんと相談したり、検討したりした結果、変更になることも考えられますので、欠席した際などには、十分注意してください。変更がある場合は、できるだけ速やかに掲示するようにします。

実験に使用する部屋は、原則として設備システム実験室（環境共生学部棟西棟（旧棟）の実験実習棟2階）です。なお、（その3・補足説明）は、居住情報実験室（環境共生学部棟西棟（旧棟）の実験実習棟2階）で行う予定です。

実験は、いくつかの班に分かれて行います。無断での欠席は、他の班員に人に迷惑をかけることになるので、やむを得ず欠席する場合は、他の班員もしくは担当者などに事前に連絡してください。また、他の班員に迷惑がかかることから、履修を途中で放棄することは原則として認めません。

2. 教科書

- 1) 今村仁美・田中美都著「図説 やさしい建築環境」（学芸出版社，2,800円＋税，「建築環境工学Ⅰ・Ⅱ」（2年生担当）教科書）
- 2) 日本建築学会編「建築環境工学実験用教材 第2版」（日本建築学会，1,900円＋税）

新しい項目に入る前には、上記の教科書や2年生時に配布した配付資料を見直し、復習をしてから臨んでください。例年、授業中の説明だけでは充分理解できないとの声があります。しかし、この実験は、2年生担当の「建築環境工学Ⅰ・Ⅱ」の内容を理解していることを、ある程度前提として進めています。「建築環境工学Ⅰ・Ⅱ」の内容が理解できていない人は、今一度勉強し直してください。なお、「建築環境工学Ⅰ・Ⅱ」を履修していない人は、担当者まで相談してください。

3. 参考図書

- 1) 田中俊六監修『最新 建築設備工学』（井上書院，3,200円＋税，「環境設備システム学」（3年生・前期配当，担当者：細井准教授）教科書）

また，その他の参考文献は，毎回配布する予定の資料の最後に載せるなどして，適宜紹介します。レポート作成の際などに参考にしてください。

4. 成績の評価

- 1) シラバスには，「各項目の実験に対して提出された実験レポートの結果を総合して，評価する。」と書かれていますが，実際には出席点とレポートを総合して，評価する予定です。実験ですので，当然ですが，定期試験はありません。
- 2) 出席点が約5～6割，レポートが約4～5割として評価します。
- 3) レポートの提出が一つでも不足している場合は，原則として60点未満の評価とします。

5. 配付資料

講義で配布する資料などは，できるだけ毎回下記のホームページにアップロードしておくので，必要な人や欠席した人は，各自でダウンロードしてください。

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/kougi.html/jikkenn.html/kyojikkenn.html>

6. 担当者（レポートの提出先）

質問・レポートの提出先は，以下の担当者まで。

准教授・辻原 万規彦

部屋：環境共生学部西棟（旧棟）4階南西角

電話：096-321-6706，もしくは383-2929（内線492）

e-mail：m-tsuji@pu-kumamoto.ac.jp

研究室助手・橋内 泰子

部屋：環境共生学部西棟（旧棟）3階南西角・細井研究室／4階中央・橋内助手室

電話：096-383-2929（内線482（助手室）／内線475（細井研））

e-mail：yasuko@pu-kumamoto.ac.jp

なお、質問は、以下の TA でも可。ただし、レポートの提出は不可。

環境共生学研究科 2 年・本田有紀子（環境共生学部西棟（旧棟） 4 階辻原研究室）

7. その他の留意事項

- ・担当教員（辻原）に対して生理的嫌悪感などを覚える場合には、その時点でその旨を申し出てください。担当教員（辻原）自身の努力で改善されるような内容であれば、極力改善するよう努めます。しかし、担当教員（辻原）自身による改善が難しくなかつ正当だと考えられる理由を書面で提出した場合には、成績評価の際に、出席点に関する考慮を行います。ただし、その場合でも、レポートは必ず提出して下さい。
- ・講義（実験）時間以外で、担当者に質問をする際には、メールや電話で事前に連絡した方が確実に時間を確保できます。担当教員（辻原）の今年度のオフィスアワーは火曜日 3 時限（12:50～14:20）の予定です（最終的には教務入試課教務班の掲示板などで確認して下さい。）が、この時間帯といえども緊急の会議などの用事が入る可能性もあります。事前に連絡がない場合は、やむを得ず対応できない可能性もあります。なお、特に携帯からメールを送る際には、送り主の氏名を明記することを忘れないでください。送り主が明記されていないメールには返答しないこともあります。
- ・担当教員（辻原）はできるかぎり標準語で話すように努めていますが、これまでの習慣上どうしても関西弁で話してしまうこともあります。しかし、漫才師などではありませんので、面白い話はできません。
- ・その日の進み具合によっては、講義（実験）の時間を延長することがあります。講義（実験）のチャイムが鳴った後、やむを得ない事情がある場合は、退室することを認めますが、講義（実験）時間の延長がある点に充分注意し、その後の予定を組んでください。
- ・講義（実験）などの説明の際には、できるかぎり具体的な事例を交えて説明するように心がけていますが、これが雑談に聞こえる場合、もしくは本当に単なる雑談の場合で、それ以上聞きたくないと思われる場合は遠慮なく指摘してください。速やかに次の説明に移るように努力します。
- ・担当教員（辻原）に対して、これまでに、「皮肉的な言い回しが良くない。」、「人としてひねくれている。」、「主観的すぎる意見があった。」、「話し方にとっても不快感を覚えた。言い方（が）嫌味すぎる。」などの意見がありました。担当教員（辻原）としては、できるだけ中立の立場から素直に皆さんに話をするように心がけていますが、上記の様に感じた際には、遠慮なく指摘してください。直接指摘しにくい場合は、レポートを提出する際に追記する、研究室助手や TA を介するなどして指摘して下さい。性格については、一朝一夕ではなかなか直らないかもしれませんが、できるかぎり、改善するよう努力します。